

書 評

骨外傷の画像診断ハンドブック

江原 茂 ● 著

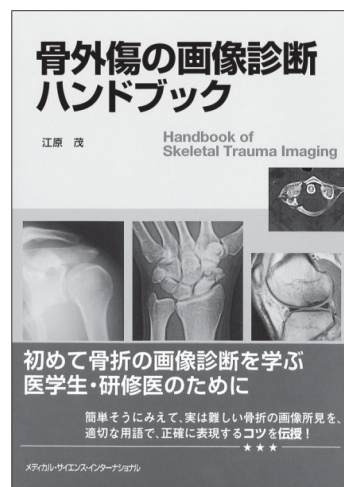
〔評者〕松下 隆 (帝京大学医学部整形外科 主任教授)

今のような臨床研修制度が始まる前は多くの大学で、国家試験合格後すぐに大学の整形外科教室に入局し、いわゆる on the job training のなかで骨外傷の画像診断能力を身につけていた。今の臨床研修制度の下では、整形外科医になる前から救急外来や ER で研修を受けることが多く、症例を前にして「折れているのか、折れていないのか」という判断を下さなければならない機会が増えていると思う。そのような研修医にとって、骨外傷に詳しい放射線科医が書いた本書はまさに福音書となるであろう。

序文によると、著者の江原茂先生は、30 年前ニューヨークの救急病院で次から次へと送られてくる救急症例の画像を前に整形外科研修医達と議論を重ねる毎日を送っておられたとのことである。そのときにバイブルとしていたのが Robert Schultz 著の Language of Fractures という教科書だったとのこと、おそらく江原先生はその教科書の日本語版となることを目指して本書を執筆され

たのであろう。厳しい実地訓練を積まれた江原先生だからこそ他書に類のない本書のような優れた教科書を作ることができたのだと思う。

本書は全部で 8 章からなる。第 1 章は骨外傷の画像を言葉で表現する際の「決まり事」、第 2 章は身体各部位別の骨折を解説しており、シェーマを使ってそれぞれの骨折を分かりやすく説明している。第 3 章は人の名前、受傷者の職業の名前などがつけられた骨折の類をまとめて紹介している。私も初めて聞く骨折があり大変勉強になった。第 4 章はいわゆる病的骨折、第 5 章は大人の骨折とは少々異なる特質を持つ小児骨折についての解説である。第 6 章は骨折と間違いやすい正常変異(normal variant)や非外傷性変化について述べている。正常変異は知っているか知らないかで勝負が分かれるので、たくさん知っている者の勝ちである。第 7 章は治療について簡単に触れてあり、第 8 章はまとめとクイズで締めくくっている。



今現在あるいは今後、救急外来に勤務するすべての初期研修医、整形外科をめざす後期研修医、そして臨床実習中の学生さんに是非お勧めしたい。この本を 1 冊読めば 1 歩前に抜け出ること請け合いです。

B5 頁204 図82 写真264 2012年
定価4,830 円(本体4,600 円+税5%)
[ISBN978-4-89592-706-2]

MEDSI 刊